



EMORY

ROLLINS
SCHOOL OF
PUBLIC
HEALTH

公益財団法人
船井情報科学振興財団御中

2022年5月26日
エモリー大学 公衆衛生大学院 ポスドク2年目
塩田 佳代子

2016年度派遣奨学生 第14回 留学報告書

マリア・スクウォドフスカ=キュリー賞奨励賞受賞報告

2022年5月17日に第一回羽ばたく女性研究者賞（マリア・スクウォドフスカ=キュリー賞）の受賞者が発表され、奨励賞に選出して頂くことができました。この賞は国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）と駐日ポーランド大使館が「日本の女性研究者のより一層の活躍推進に貢献することを目的に、国際的に活躍が期待される若手女性研究者を表彰する」ために創設したものです。20代後半から30代前半は研究者として活躍が期待される大切な時期ですが、同時にライフイベントを多く経験しドロップアウトする可能性も高い年代です。そこでその年代の女性研究者を後押しするため、30代前半で大きな発見をし女性初のノーベル賞を受賞したマリア・スクウォドフスカ=キュリーにちなんでこの賞が作られました。

5月17日に駐日ポーランド大使館にて授賞式が行われ（参照：[NHKの記事](#)）、18日に受賞記念講演会が行われました。私は帰国できなかつたためオンラインで参加し、スピーチ、研究発表、パネルディスカッションをさせて頂きました。今年は80人の応募があったそうで、その中から選んで頂くことができ大変光栄に思っております。

Emory大学も[こちら](#)で記事を書いて下さいましたが、子どもたちが生まれてから数年間パンデミックで孤立して子育てをしつつ仕事を続ける中で、様々なチャレンジを乗り越えるために、考え方・働き方・価値観・スピード感など自分の人格の根幹に関わるような部分が大きく変わったと実感しています。一筋縄ではいかないことも多く、こんな状態で自分が研究者として仕事をしていても良いのか、子どもたちにも職場にもストレスをかけてまで仕事をする意味があるのかと悩むことも少なくありませんでした。そんな中で頂いた賞で、「今はそれでもいいんだよ、研究者として頑張り続けてもいいんだよ」と言われたように感じています。

これからも研究者として、母として、人として成長し、人間と動物の健康に貢献できるよう日々精進します。また、大学内外において diversity, equity, inclusion (DEI)の推進に貢献し、様々

なバックグラウンドの人たちが安心して早く仕事・生活できるよう環境改善に努めていきたいと改めて思います。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

研究報告（2021年12月～2022年5月）

Lopman Lab における新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の研究

報告期間中に1本のCommentと1本の査読つき論文が出たのでご報告します。

1. **Shioda K**, Lopman BA. How to How to interpret the total number of SARS-CoV-2 infections. The Lancet. 2022 Apr 11
2. Lau MSY, Liu C, Siegler AJ, Sullivan PS, Waller LA, **Shioda K**, Lopman BA. Post-lockdown changes of age-specific susceptibility and its correlation with adherence to social distancing measures. Scientific Reports 2022 Mar 17;12(1):4637.

また、世界保健機関（WHO）の Strategic Advisory Group of Experts on Immunization (SAGE)の研究費に co-investigator として応募し、\$25,000 を獲得することができました。エモリー大学の PhD 学生とともに、今後コロナウイルスワクチンをどのように運用していくべきか、抗体保有率サーベイランスの結果を組み合わせシミュレーションし政策提言することを目的としています。

Freeman Lab における人獣共通感染症（One Health）の研究

2022年2月、One Health・Environmental Health の新しいプロジェクトを行うため、NIH の R01 という大きな研究費に Matthew Freeman と Karen Levy とともに応募しました。丸々一年かけて準備しました。結果はどうなるかまだ分かりませんが、R01 レベルの大型研究費の構成から提出まで全ての工程に関わったことはとても良い勉強になりました。PI として独立するための良い準備になったと思います。

モザンビークの首都 Maputo にて数年前から行っているニワトリや鶏肉・鶏卵のカンピロバクター・サルモネラ汚染のプロジェクトですが、いよいよ最終段階にきています。近々論文をサブミットする予定です。学会発表も3つ控えています。

今回のご報告は以上になります。いつも温かいご支援ありがとうございます。心から感謝しております。これからも日々頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

塩田佳代子

Kayoko Shioda, PhD, DVM, MPH

kayoko.shioda@aya.yale.edu; kayoko.shioda@emory.edu